

(別紙4-1)(ユニット1)

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173501305		
法人名	医療法人社団倭会		
事業所名	グループホームしづく		
所在地	登別市柏木町4丁目24番地9		
自己評価作成日	令和3年1月18日	評価結果市町村受理日	令和3年3月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL [https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/U17/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_022\\_kani=true&ligvovsyoCd=0173501305-00&ServiceCd=320&Type=search](https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/U17/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&ligvovsyoCd=0173501305-00&ServiceCd=320&Type=search)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	合同会社 mocal		
所在地	札幌市中央区北5条西23丁目1-10-501		
訪問調査日	令和3年2月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

おひとりお一人の気持ちを大切に、個々のペースで安心して暮らしていただけるよう取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営母体となる医療法人社団倭会は、精神科医療を担う中、認知症についての高い専門性を生かし、2カ所のグループホームを開設しており、当事業所は15年目を迎えています。JR幌別駅から車で5分程の閑静な住宅街に立地する、白亜のオシャレな平屋造りの事業所は住民に親しまれ、玄関ロビーには地域住民から寄贈された手作りの人形や事業所のトレードマークでもあるフクロウなどが飾られています。屋内はリビングの壁を三角に切り取ることで多くのパブリックスペースが生まれ、利用者間に程良い距離感とゆったりとした寛ぎの場を提供しています。三角の大きな窓や天窗からは自然光が射しこみ、夜間は間接照明で柔らかな明かりで過ごすなど、居心地の良い環境となっています。事業所は、利用者それぞれのかかりつ医受診のほか、緊急時対応として訪問診療の協力医の体制も整え、日々の健康管理から終の棲家としての看取り支援まで充実させています。既に多くの看取りを経験し、現在も終末期介護支援に取り組む、利用者、家族の支えになっています。最終期まで、その人らしく充実した暮らしを営めることを目的として、一連の家事作業も残存能力を活かして行うなど活気ある生活を支援し、笑顔に繋げる努力を惜みず利用者に寄り添っています。コロナ禍のため外出や交流の機会を自粛していますが、収束後には地域住民や家族を巻き込んだ事業所主催の行事を検討しています。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印			↓該当するものに○印	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関、ユニット、スタッフルーム等、目につく場所に理念・方針を掲示、又、定期的にミーティングで理念について確認し実践できるよう努めている	事業所独自の理念と方針はパンフレットに明記し、玄関、事務所、各フロアに掲示して職員の意識付けを図ると共に、家族や訪問者への周知に努めています。毎月のミーティングや新人及び内部研修で地域密着型サービスの意義の確認と理解を深め、ケアの実践に活かしています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の清掃活動や催し物には可能な限り参加をしたり、散歩時などあいさつを交わしたり庭の花を頂いたりしている	今年度はコロナ禍で地域行事を始めとした殆どの行事が中止となる中、年2回の清掃活動への参加、高校の実習生の受け入れは行われており、地域貢献に繋げています。住民との挨拶のほか、回覧板や町内広報誌で地域活動の情報や接点を得ています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	最近の実績はない		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、開催し地域住民や包括等と意見交換ができていたが、今年度はコロナの影響で開催できていない	運営推進会議はコロナ禍の緊急事態宣言発令により、今年度は5月を中止とし、7月以降の開催は書面会議で行っています。運営推進委員からは事前に意見、感想、質問等を聴取し、それに答える形で意見交換が行われ、コロナ禍での活動状況を報告し乍ら、運営体制への理解に繋がっています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市には1回/月、事業所状況を報告定期的に包括の後方支援もあり、協力関係はできている	行政との関わりは施設長と管理者が分担し、事故や各種報告書は担当窓口に出向き提出しています。認定調査訪問時には事業所の現状を伝え助言を得て情報の共有を図ることでサービスの質向上に繋がっています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に施設内研修及び必要に応じ外部研修に参加し、職員全体で共有し理解し、身体拘束・虐待のないケアに取り組んでいる	身体拘束や虐待の防止については、身体拘束廃止委員会や研修会を定期的に開催し正しい理解に繋げ、適正なケアへの確認を行っています。現在、指針の充実を検討しています。人感センサーは家族の同意を得て使用し、言葉遣いについては施設長、管理者が適宜注意を促し、ケアの基本に立ち戻っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に施設内研修及び必要に応じ外部研修に参加し、風通しの良い職場環境を意識し不適切なケアでも見過ごさないように努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	役職のある職員は、研修に参加する機会はあるが一般職員と学び理解する機会は今現在は持っていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に代表者又は管理者が丁寧に説明を行い契約している		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に何か所か意見箱を設けている。また、広報誌にも連絡先を載せ、意見が出やすいように努めている	事業所は毎月の便りで暮らしぶりを報告し、受診時やプランの見直し時には利用者の状況を伝え、家族の想いを汲み取るように努めています。意見や要望があれば真摯に受け止め運営に反映させています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回の業務ミーティングを開催し意見が出やすいように工夫をし、職員の意見を聞いている	職員の意見や提案は、毎月の業務ミーティングで協議され、就業環境の整備を含めた事業所の質確保に活かしています。職員は各委員を担い、事業所の運営に参加しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい環境づくりに努めているが、最近では職員の定着には至っていない		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の経験やスキルに応じ内外の研修に参加できる機会を設けている。また、OJTの確立も進めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	グループホーム協会、包括主催のネットワークの勉強会等、交流の場はあったが今年度はコロナ禍の影響で交流の場はなくなっている		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に事前訪問し顔を知っていただき、本人との話の中から要望を確認し、今までの関係性を継続しながら新しい関係を築けるよう努力している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族が不安に感じていること、要望などを確認し、入居されても家族と一緒に見守っていける関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族が入居を希望された経緯や何に困っているのかを理解し、他職種との連携を図り必要な支援をできるように努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人のまだできることを見極めその力が生かせるような支援の工夫をし、お互い様の関係が築けるよう努めている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にできることは協力していただき、何かあれば相談しながら、一緒に支えていく関係が築けるよう努めている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	買い物先、美容室、病院、家族友人との面会など、特に初期の場合には継続できるよう努めている	現在、外出や面会を自粛していますが、家族や職員の協力で、馴染みの美容室訪問やかかりつけ医への受診を継続しています。家族とは、リモート面会や電話で親睦を深め、関係を断ち切らない支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方、そりの合わない人同士の関係性を把握しスタッフ間で情報共有しケアの工夫に努めている		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	最近では看取り退去がほとんどでサービス利用終了後は連絡も遠のいてしまいがちだが、どこでお会いしてもあいさつをし近況の情報交換をしたりすることもある		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意志がうまく伝えられない方においては、本人言動や家族からの情報から思いをくみ取りできるだけ、希望に沿えるよう努力している	利用者との会話を大切に意向の把握に努めていますが、言葉での表現が難しい場合には、仕草や表情など関わりの中で想いの汲み取りに努め、職員間で情報を共有し想いの実現に向けた支援に取り組んでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス開始の前に、本人・家族・担当ケアマネとの面談、情報収集に努め、できるだけ本人の望む暮らしが継続できるよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今までの本人の生活の日課、行動範囲、医療の情報を元にプランを立て、有する力が維持、向上できるよう努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	1回/月のミーティングでスタッフ個々が感じている本人の課題を提言し話し合っている。家族の意向も確認しながら介護計画を作成している	3ヵ月毎にモニタリングを行い、知り得た情報を基に課題解決に向けた話し合いが行われ、職員の気づきや情報も加味して利用者の望む暮らしを反映した介護計画を作成しています。利用者、家族の要望に加え、必要に応じて医師、看護師の意見も参考にして6ヵ月毎に見直され、入居時や緊急時には随時検討しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間、口頭での情報共有はできているが、記録への落とし込みが充分ではない		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者個々の新しいニーズがくみ取れるよう努力し、既存のサービスにとらわれず柔軟な対応ができるように努力している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じて地域資源を活用したいと考えているが今は実践がない		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の意向を優先し、継続して医療が受けられるよう努めている、また、往診などかかりつけ医が変わる場合は本人や家族の意向を踏まえて十分に相談し決めている	本人、家族が希望する医療機関への受診が可能で、家族や職員が支援しており、月2回の歯科医の定期往診にも対応しています。週1回来訪の訪問看護師は医療関係者と連携を図り、利用者の健康管理に当たっています。通院が困難な状態の時は往診対応の協力医への移行も考慮しています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所と契約している訪問看護ステーションとは信頼関係が築けていて、24時間オンコールで何かあればすぐに相談し、早期の対応や処置ができている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は本人の生活状況を書面と口頭にて伝え安心して入院生活が送れるよう配慮に努め、退院に向けては早期に受け入れができるよう、こまめに連絡を取り情報交換に努めている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	本人の状態に応じ将来起こりうることを、段階的に家族と話し合い、共有し、医療職も含め本人が最後まで望む生活が送れるよう取り組んでいる	重度化や看取り介護に関する指針を整備し、終末期ケアについて同意を得ています。多くの看取り事例があり、その都度家族、医師、看護師、職員と話し合いを行っています。現在も終末期対応に取り組んでおり、利用者や家族との関わりを大切に、納得のいく看取りを支援しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応マニュアルではすべての職員が、確認、利用者に想定される急変に応じた対応も随時職員間で共有しているが、実践力が十分に身につけているとは思えない		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回夜間を想定した、火災・災害避難訓練を地域住民も交えて実施している。また、年間ですべての職員が訓練に参加できるよう工夫している	今年度は、消防署立ち合いの夜間想定避難訓練と日中想定自衛消防訓練の2回実施しています。参加消防職員の総評や見学した地域住民の感想、意見など参考に防災意識の向上に役立っています。	コロナ禍で前回挙げた計画が達成できずにおり、救急救命訓練への参加や自然災害時での平行移動訓練の実施などを再度検討していますので、継続して目標達成に臨む事を期待します。

#### IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員に言葉の選択には課題があるが一人ひとりの入居者と信頼関係が築けるような言葉かけができるよう努力している	プライバシーに配慮し、一人ひとりを尊重した言葉遣いや接し方を心がけています。個人情報はパソコン内で管理されており、職員間の情報交換時には、他者に気付かれないように、暗黙での表現を工夫しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定ができる方には日常生活の中で常に本人が決定できるように支援しそうでない方は言動や情報から本人の希望をくみ取るように努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	食事、入浴、排泄、お楽しみなど事業所での決められた時間のみで行うのではなく、本人のペースに合わせた柔軟な対応に努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の生活歴にある、身だしなみやおしゃれに対する嗜好を元に、年長いてもおしゃれが楽しめるよう工夫している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	五感の刺激になるよう、できる方とは一緒に調理をし、そうでない方にもおいや盛り付けにより、食事が楽しみになるよう、支援の工夫に努めている	食事は各ユニットで工夫しています。誕生日はケーキで祝い、季節行事食にはバーベキューなど利用者のリクエストに応え、変化のある食事を提供しています。また、食事形態にも気を配っています。食事一連の作業も利用者の力の発揮場所として自然に参加出来るように声掛けし、一緒に行っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量は記録し一人一人の摂取量の把握に努めている。また、栄養バランスについては同一法人内の管理栄養士に献立の確認とアドバイスをしてもらっている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実践に努めている。又、月2回の歯科衛生士による訪問歯科を実施。異常があれば速やかに歯科医師へつなげている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人の排泄状況は定期的に職員全体でアセスメントをしおむつの見直しやできる限り自立した排泄への支援に努めている	5割ほどの利用者が自立排泄が可能ですが、見守り、声掛け、誘導を行い、トイレでの排泄を基本に支援しています。布下着や排泄用品の使用を工夫したり、夜間のベット上でのオムツ交換など、より快適で安心して過ごせるように配慮しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤だけに頼るのではなく食物繊維や乳飲料の摂取や運動も取り入れながら、便秘予防に努めている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	入浴の時間制限や個々の入浴の曜日を決めることはせず、一人ひとりのタイミングに合わせて声掛けをしている、また、お湯の温度など本人の好みに合わせた支援に努めている	湯船に浸かることを基本に週2回を目安に入浴を支援し、好みの湯加減や一番風呂、入浴剤など気を配り、1対1での会話の時間を大切にしています。体調によっては、シャワー浴、清拭も取り入れ衛生保持に努め、同性介助、二人介助で安心と安全に配慮しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠が充分とれるように日中の活動の工夫をしたり、夕食後のケアや照明や音など五感への刺激にも工夫をしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の薬情は全職員がいつでも確認できる場所に保管、薬や症状が変わったら、速やかに情報共有している		

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			自己評価	実施状況	実施状況
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴から趣味や特技を理解し日常に取り入れ生かせるような努力はしているが、積極的な実践とまではいえない		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節的に良い時期は散歩、ドライブに行けたが今年度はコロナの影響で思うような外出はできていない	例年は年間計画を立て、季節に応じた花見や紅葉狩りへのドライブ、外食などに出かけています。現在はコロナ禍で、玄関先での日向ぼっこやウッドデッキでのバーベキュー、ティータイムなどで気分転換を図っています。家族の協力の下での通院や美容室へも外出の機会と捉え、馴染みの関係継続にも繋がっています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の有する力に合わせお金の所持、使い方は支援しているが、現在、入居されている方はお金の管理が難しくなっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持されたり、ユニット内専用の固定電話があり、電話を掛けたいときにかけられるように支援している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニット内3か所に温度、湿度計を設置し空調に気を配っている。採光や照明も過剰な刺激にならないように間接照明を使い工夫している	広い共有空間の壁を三角に切り取ることで、パブリックスペースが多く作られ、利用者が其々に寛いでいます。中心にダイニングキッチンがあり、利用者に目が届く配慮が成されています。日中は大きな窓や天窓からの自然光、夜間は間接照明を活かした柔らかな明かりで安らぎの空間となっています。玄関には住民からの手製の品々が飾られ、温かな雰囲気醸し出しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の思いや利用者同士の関係性を考慮し、ソファやテーブルの配置を工夫したり、有する力が生かせるように作業のしやすさも工夫している		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には新しいものを買いそろえるのではなく、今まで使っていたものをできるだけ持ち込めるようお願いし、本人と家族で話し合いながら居室が作れるよう支援している	広めの居室にはクローゼットが備えられ、ベットも用意されています。入居時には、仏壇、筆筒、テレビ、テーブル、椅子など動線に配慮して配置し、家族写真や自作品など飾り、各々自分の居室を作り上げています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室には多くの手すりが設置され、安全に入浴ができるように、また、物干しも外にデッキが設置され段差がなく安全に出られるようになっていて、季節を感じながら作業ができるように工夫されている		